



科学の眼

まなこ

発行:姫路科学館 (〒671-2222 姫路市青山 1470-15 電話:079-267-3961)

<http://www.city.himeji.lg.jp/atom/>

生物シリーズ

新年を祝う花の代表

フクジュソウ (キンポウゲ科)

Adonis amurensis

姫路科学館長 古角 孝之

「お正月（新年）を祝う植物は何？」と聞かれて、松・竹・梅と並んで思い浮かぶ植物のひとつがフクジュソウです。江戸時代から、お正月にはこの植物の花とナンテンの実とをセットにして「難を転じて福となす」という縁起物の飾り付けがされてきました。

本種は、東北地方など比較的寒い地方の、日がよく差し込む山地の林床・土手・丘陵などに自生する多年草です。旧暦のお正月の頃（2月）に黄金色の花を咲かせ、開花期間が長い（寿命が長い）ところから、幸福の「福」とめでたい長寿の「寿（ことぶき）」をあてて、福寿草（ふくじゅそう）と名付けられました。また、元日草・朔日（ついたち）草・賀正草・報春花・・・と、めでたい名前がつけられています。



【フクジュソウの生態】

その1 スプリング エフェメラル (Spring ephemeral) : 春植物、春の妖精

スプリング エフェメラルは、日がよく差し込む落葉樹の林床で、春のうちに花を咲かせ、実を結び、光合成を行って養分をたくわえ、落葉樹が新緑の季節を迎えるころになると地上部（葉・茎）は姿を消してしまい、翌年の春まで地下（地下茎）で過ごす植物です。待ち焦がれた春を告げる花の意味で春の妖精と訳されることもあります。フクジュソウの他に、夢前町に自生するセツブンソウ（写真1）・イチリンソウ（写真2）、上郡・佐用に自生するカタクリなどもこの仲間です。



写真1 セツブンソウ（キンポウゲ科）



写真2 イチリンソウ（キンポウゲ科）

その2 アリ散布植物

フクジュソウなどの春植物やスマレ・カンアオイの仲間の種子にはエライオソーム（成分：オレイン酸・リノール酸などの脂肪酸）と呼ばれるアリを誘引する物質を含んだ付属体が付いていて、結実した種子が地表に落下するとアリがそれを見つけて巣に運び込みます。そして、エライオソームだけが食べられ、種子自体は巣内のゴミ捨て場に捨てられたり巣外に放り出された後に発芽して増えていきます。

その3 光や温度に敏感に反応する植物

フクジュソウは光や温度に非常に敏感で、昼間でも日が遮られると1～2分で花がしぼみ、再び日が当たるといつの間にか花が開きます。寒い時期に花が咲くので、花の中の温度を下げないための工夫を植物自体がしています。

【学名：Adonis にまつわる伝説】

フクジュソウ属の学名 *Adonis* は、「ヨーロッパのフクジュソウ属の赤い花は、キプロスの王子アドニスがいノシシに突き殺されたのを、彼を愛した美の神：アフロディテが悲しんで、その涙がアドニスの血と混じって咲き出した花だ。」という伝説に起因します。この伝説から、赤い花を咲かせるフクジュソウ属の植物は、悲しい思い出の象徴とされています。

【フクジュソウの花言葉】

幸福を招く・永久の幸福・祝福・回想・思い出・悲しい思い出